

向陽

〒780-8014 高知市塩屋崎町1丁目1-10 TEL(088)833-4394 FAX(088)833-7373

<http://www.tosaobog.com>



「2011 ホームカミングデー」

平成23年8月13日(土)



今年のホームカミングデーは、総会の後、筆山ホール講演2つと特別授業が行われました。450名を超える同窓生が集い、懇親会もこれまでで最も多い1240名が参加し、大いに親睦を深めました。

土佐中・高等学校同窓会会長 岡内紀雄



就任のご挨拶



学校長 山本芳夫

新年度の入学式で、緊張しながら式辞を述べたのが昨日のようでございますが、あっという間に半年が経過いたしました。

私は校長就任にあたっての抱負を四つ申し上げます。一つ目は、諸先輩が築いてこられた土佐校の伝統とブランドを守り抜き、さらに進化させてまいりたい、二つ目は、「生徒一人ひとりの個性と才能を最大限に伸ばせる土壌と環境を一段と整えてまいりたい」、三つ目は、「皆が忌憚なく意見を言い合える風土が根付いた組織であり続けたい」、そして四つ目は、「地域に開かれた学校、地域の人々に愛される学校づくりをさらに目指したい」ということであります。そして、これを私の学校運営の基本姿勢と位置づけ、母校の更なる発展のため、ベストを尽くす覚悟であります。

同窓会の皆様におかれては、どうか今後ともご指導ご鞭撻を、そして母校への更なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。

少し前に、『カンブリア宮殿』という村上龍と小池栄子さんが司会をする経済番組に出させてもらいましたが、その番組の中で「業界最下位のメーカー」「業界最下位のメーカー」と何度も紹介されました。富士重工業(株)という会社に勤めておりません。スバルを造っている会社と言えれば解ってもらえるかと思いますが、先々月の六月に五年間つとめた社長を退任致しまして、会長職につきました。弊社は小さな会社ではありませんが、日本の基幹産業といえる自動車産業に席を置いて、数々の荒波と戦ってきた人間として、今迄の私の経験をお話しさせて頂きます。

皆さんが良くご存知の開校碑文の出だしの言葉、『筆山の麓、鏡川の畔』という文章が好きです。直ぐに高知の町並みが想い出されます。実際に私が高知で長く住んでいたのは昭和町、即ち『愛宕山(ここの森)の麓、久万川の畔』という事になります。自転車通学でした。江の口小学校の直ぐ裏に住んでいましたが、私が住んでいた時は家から久万川までは一面の田んぼで、その中を瓢箪川という川が流れていました。よく鮒や鯉つりに出掛けました。鬼やんまを夢中になって追いかけたものでも。夕方になると蝙蝠が何処からとも無く飛んできて、蝙蝠つりもやりました。いまは田んぼが全てなくなり家が立ち並んでいますし、瓢箪川も無くなっています。少し寂しい気がします。時代の移り変わりで仕方ないでしょう。今は高知に帰ると朝倉に住んでいますので、未だ少

し昔の高知が残っている気がします。高知では江の口小学校、土佐中、土佐高で過ごしました。土佐では成績も中位、全く目立つ事のない普通の生徒だったと思います。人並みに部活をし、マドンナに憧れる学生でした。唯一悪友からマーシャンを教わり、早い時期からボン、チーを憶えました。大学は早稲田と国立の二期に合格したのですが、やはり日本を中心の東京に出たいという憧れで親には無理を言って東京に出て来ました。学生時代も平凡でマーシャン、ボーリングに明け暮れ、部活を

Fact, Communication, Respect



富士重工業株式会社会長

森 郁夫(41回生)

し、下宿でギターを鳴らしていました。ただ、今の若い人から見るとまるで違う世界の話でしょうが、当時は学生運動の華やかなりし頃で、まあ影響を全く受けなかった人間は少なかったと思いますが、私も機動隊に守られる中で入学試験を受け、口ツクアウトの中で卒論を書き卒業した年代になります。担当教授には「お前たち程勉強していない学生はいないので、卒業したらずっと苦労するぞ」と言われていました。ベ平連(ベトナムへ平和を連合会)や革マル等のデモが盛んで、一〇月二

一日国際反戦デーには、今私が勤めている本社のまん前の新宿西口がデモ隊で埋まったものでした。まあそんな訳で当時の一般的な学生として恋もし、平凡と言える学生時代を過ごしました。しかし、初めて親元を離れ、ある程度自分の責任で生活したこの時期に自分が少し大きくなったと思います。

大学卒業にあたり、物造りに関わりたいという思いと、飛行機を造っている会社という事で今の会社(富士重工業)に就職しました。男一人の姉弟でしたので親戚達からは戻る

ように言われ、高知に就職しようかという気持ちもあつたのですが、親父が自分の夢が叶えられなかつたという思いもあつたので、高知に縛ることなく、「広い世界を視る」と自由にさせてくれました。親父もお袋も死ぬまで姉夫婦の世話になつてしまつたので、長男としては心苦しい所もあるのですが、親父お袋には感謝しています。

高知の出身だと自己紹介しますと「ほ、坂本龍馬の国ですな」と言われます。また、土佐高の出身だといくと、昔は「ほ、全力疾走の学校で

すね」と言われました。これは、やはり嬉しいものにして、急に自分が龍馬になつた様な気がしますし、自分が甲子園で野球を追いかけた様な気にしてくれます。

私も坂本龍馬は好きですが、何と云つてもあの明るさ、行動力に惹かれます。桂浜に立つて大海原を見渡せば、やはりあの海の高さ、未知の世界があると思わせますし、未知の世界に向かつて船を漕ぎ出そうと思えます。高知はそんな人間を育てる土地だと思います。

自動車会社は今迄数々の危機に面したこともあり、色々な合従連衡を繰り返してきています。我が社に関して言えば、私が入社した時は日産自動車との関係が強かつたのですが、その後アメリカへの工場進出にあつては、いすゞさんと合弁会社を設立しました。その後経営が苦しくなり、日産OBの方が社長になられた時は、日産との繋がりが又強くなつたのですが、世界的な再編の中で一時GMがうちの筆頭株主になり、そのGMの衰退により株の大部分をTOYOTAに引き取ってもらいました。そういう訳で今はTOYOTAさんとアライアンスを組む関係ですが、この様に今迄数々の会社と共に仕事をしています。

この様に色々な会社と組むという事は、夫々の会社の文化が、ある時は対立する事もあります。それを乗り越えて融合するといいますが、ハイブリッド文化として花咲かせる事も出来る訳で、色々なカルチャー

を取り込むチャンスでもあります。文化といいますが、人生の中で幾つかの節目がありました。やはり住む所が変わった時が、生活が変わる事も大きい転換期になりました。その中でも私にとつての最大の転換期はアメリカに赴任した事です。それまでも少しづつ外(違う世界)に出る事によって世界が広がってはいましたが、まるで異なる文化の中での仕事、生活は驚きの連続でした。

これらの事を通して、私が仕事をしていく上で、また生きていく上で常に大事にしている3つの大切な事が、今回演題としてあげた三つの言葉という事になります。

Fact

一つ目は Fact 事実、真相という意味で、我々がよく使う現場主義という言葉も当てはまると思っています。全て現場に赴き、自分の眼、心で確かめなければ本当の事は解らないという事です。見ると聴くでは大違い、また背景が解らないと意味が全く違ってしまふという事を本当に沢山経験しました。アメリカで工場を立ち上げた時、驚きはいくつもありませんでしたが、一番驚いた事は先任権 (Seniority) という概念があるという事です。日本にいる時には考えても見なかった概念です。例えば工場では二直生産をします。日本では当然のように、一直と二直の従業員はローテーションをします。この方が我々にとつては全ての従業員に対して公平である、という考えが根本にあると思います。しかし、アメ

リカ人にとつてはローテーションする事が不公平であるのです。即ち Seniority というのは、先に職場に入ったものが、先に選択する権利を有するという考え方です。従つて基本的には先に仕事を果たものが一直で働く権利を有する訳です。あるいは二直だと手当が多くなるので、二直で働く権利があるのです。即ちローテーションは行わないで、二直固定が彼等にとつては公平だということになります。これは驚きましたし、この仕組みは正直工場の運営には障害になりました。

他には Responsibility、責任という言葉の考え方の違いも勉強になりました。例えばこういう事です。私が若い頃に尊敬する社長から言われた言葉に、『他人の庭を掃け』という言葉がありました。即ちお互いの仕事の境界線はどうしても疎かになることが多いので、その空白部分を夫々が気を利かせて補い合つて仕事を進める、という教えでした。お互いの連携によって仕事を進めるといふそういう仕事の進め方をさせたかったのですが、どうしてもアメリカ人には理解してもらつてできませんでした。アメリカ人にとつて他人の庭を掃くという事は決してやってはいけない事なのです。アメリカ人にとつて他人の庭を掃くという事は他人の領域を侵す事になるのです。即ち他人の仕事を奪つてしまふ事なのです。アメリカ人が自分の仕事に枠をはめて決してグレイの部分に手を出さない事、逆に日本では責任が曖昧になつてしまふ事、これらはや

はり国の成り立ちから来る考え方、文化の差です。同一民族ですつと国を造つてきた日本と、多国籍の人種が新しい国を造つてきたアメリカとの考え方、文化の違いです。どちらが正しいという事ではなくて、考え方の違いなのです。それを事実として認めて対応するしかありません。

Communication

二つ目は Communication (伝達、連絡(する事)) という意味で使われますが、先程お話しした事実の中にも世界には色々の文化、意見があります。そうしたお互いを理解するためには Communication 無しでは不可能です。また文化が同じでも、人には夫々の考え方があり、意見があります。そういう中でお互いを理解するために議論を尽くそうという事です。これから益々グローバル世界になつて行くなかで色々な世界、文化と出会つていかなります。Communication 無しでは何も生まれません。お互いの意見を交わすこと、戦わせる事で更に素晴らしい結果が得られる事もあります。

Respect

最後の言葉 Respect 尊敬する、重んじる、また敬意尊敬という意味です。これは何をしても結局は人間相手であるという事です。仕事をしても一緒に余暇を過ごすのも人間とです。どんな激しい議論やビジネスを通じても、またこの国でビジネスをするにしても、常に相手を尊敬する気持ちがないと仕事は上手くいきません。相手を尊敬して仕事を進めると同時に、相手から尊敬さ

れるような真摯な仕事の進め方をすることが必要なのではないのでしょうか。

私の好きな言葉はこういう事なのですが、ある時高知の大先輩から聞いた言葉があります。渡辺五郎さんという小津高を出られ、三井物産の副社長をされた方ですが、二〇年近くを海外で勤務された本場の国際人で私の尊敬する方ですが、その方が日本の経営者に欠ける点として三つ挙げておられます。それは、
1. Proactive 積極的に参加する、
2. Assert 主張する、
3. Tolerance 寛容または落とし所を持つ、の三点です。私としては本当に得意な部分ですが、これからの世界で海外の経営者と伍して世界で活躍するには本当に必要で、また日本人の得意な所でもあると思います。もう一つ渡辺さんが言われていますが、グローバルな人脈作りも大切だと思います。

私が社長に指名された時に、家内が言った言葉があります。「あなたは背が高いのと、声大きいのと、運だけで社長になれた」と。社長になつた事が、運がいいと見るのか、運が悪いと見るかは意見の分かれる所だと思えます。運が良いことは大切だと思います。運が良いことと常にネア力に物事を考えられる事、これが経営者には一番大事なんじゃないかと思えます。
リタイアしたら高知に帰ってきてのんびり暮らすのが夢です。たまには葉牡丹のカウンターで酒を飲みながら。その時はお付き合下さい。

私をささえてくれたもの

〜郵便不正事件の経験を通じて〜



内閣府政策統括官

村木厚子（49回生）

49回生の村木です。母校は卒業30年で同期が集まって以来です。こうして呼んでいたで感謝しております。事件の前後、高知で応援してくれの方々に改めてお礼申し上げます。両親が高知に住んでいるものですが、何かとマスコミで報道されたとき、地元

の支えは本当にありがたかったです。逮捕されたのは二年前、二〇〇九年の六月でした。今だと笑って、大阪に単身赴任しておりまして、と言えませんが、得難い体験をいたしました。事件の始まりはそれより何ヶ月か前、郵便割引制度が不正に利用されて偽の障害者団体がそれで儲けている、といった報道がされるようになりました。そのうち、「凛の会」が障害者団体であるという厚労省の証明書を持っているらしい、と言われるようになりまし

た。私が障害保健福祉部の企画課長をしていた当時のことなので、その課に問い合わせをすると、役所なら必ずあるはずの決裁文書など一切残っていないということでした。ならば団体が偽造したんだ、といった程度に思っていました。

ところが、五月下旬になって突然、

当時の係長が逮捕されました。裁判が終わっていませんので臆測でものを言うのは控えなければなりません、非常に真面目な、その言葉の上に「なんとか」がつくような方でした。取り調べの状況は「検察関係者によれば、...」といった形で新聞に載ります。課長（村木）の指示でその文書を作ったと

さらには、上司に当たる部長が「国会議員から頼まれて村木課長に指示した」と供述していると報道されるに及び、新聞には大見出しが躍るようになりました。

マスコミとの追っかけっこが始まりました。自分の執務室にいられないから、こっそり仕事場も別に移しました。トイレに行くときは見張りを立てました。家にもマスコミが押しかけるようになり、帰れなくなりました。国会に呼ばれると逃げる場所はありません。乱暴な記者がマイクを突きつけてきます。車を乗り換え、記者を振り切つて逃げる、という毎日が続きました。

検察からは何も連絡がない。新聞を見て「ああこんなことになっているんだ」ということを知るような日々でした。気の利く同僚が「これはおかしい」「早く弁護士さんと相談した方がいい」と

と言ってくれました。

検察の描いたストーリーはこうでした。無関係だったので、お名前を出させていただきますが、民主党の石井一先生（参院議員・当時党副代表）が私の上司である部長に、「偽の証明書を出してやってくれ」と頼む。部長が課長の私に指示をして、私が係長に偽の障害者団体ということを知りながら証明書発行を指示、それを私が団体の人に直接手渡しをした、というものです。何しろ五年も前の話ですから、団体の人に会つて確かめるかどうかの記憶ははっきりしません。一生懸命、当時の記録を調べましたが、分かりません。私に「けっこう、記録簿」で、いるんなかたちでメモを残しています。でも、どこを探しても、何も出てきません。手帳とか業務日誌を持って、弁護士の中（惇一郎）さんに相談しました。その時、「一切何も隠さないでください。まさかとは思いますが、万一、逮捕されたら書類はこっそり持って行かれるので写しだけ取りましよう」と言われました。

六月半ば、大阪地検特捜部から「大阪に来てください」と連絡がありました。いわゆる、任意の取り調べです。その時、「逮捕」という言葉が弁護士さんの口から出ました。最悪そういう状況に私はいるんだ、と思いました。当然、検事に、上司から指示を受けたこともない、受けても絶対に断つていい、この種の「証明書」は手渡すようなことはなく、普通なら係が郵送処理しますと全面的に容疑を否認しました。ただ、調書には「畏」がありました。私は「会ったかもしれないが記憶はな

い」と答えましたが、上手に誘導され、「会ったことはない」と全面否定の調書が作られました。そして「あなたを逮捕する」と告げられました。あとで「会ったことは会ったが、...」という供述だと逮捕しにくかったと聞きまし

た。私、逮捕は初めての経験でした（笑い）。夫はその時海外でした。頭をよぎったのは、娘が報道で逮捕を知ることとは避けたいという思いでした。子供の番号を探さずして、夫に「たいほ」とメールが送れました。ケータイは後に押収され、パレるんですけれど

。大阪拘留所に運ばれました。二〇日間わたる取り調べの始まりです。担当検事は二人。ニツクネームをつけた。最初の「清潔系」検事は「海老蔵」です。取り調べの冒頭「あなたは起訴されるでしょう」と言い、「私の仕事はあなたの供述を変えることです」とも言う。立派な人でしたが、「執行猶予がつけば大した罪ではない」と言われたときには、泣いて抗議しました。どうも、検事と国民の感覚はズいぶんズレがあるようです。

二番目の「ホスト系」検事は「（松田）優作くん」です。検察的には「出来る人」でしょうが、私流に言えば相当歪んでいる。「否認をしていると裁判で罪が重くなる。私はあなたのこと心配しているんです」と言つた。また、「あなたが嘘を言っているか、他の全員が嘘を言っているか、どちらかですね」とも言う。

どう言われても違うものは違う。この検事の調書には一切サインしません

2011ホームカミングデー特別授業



楠目博之先生 (51回生)



特別授業を聴講して 依光 成元 (51回生)

原稿を依頼され、引き受けたものの文章下手で申し訳ありませんが、とりあえず、「2011ホームカミングデー特別授業」のご報告をいたします。楠目先生とは、小学校からの同級生で仲良くもあり、私が特別授業の講師に推薦しておきながら、全国的にネームバリューを持つ先輩の講演と同時に授業を行う事を承諾してもらえないか、恐る恐る連絡すると、「おおいわや」との即答でした。彼らしいと言えばそれまでですが、逆にこちらは「何とか教室を埋めないと」と変なプレッシャーを感じ始めていました。ところが、最終の実行委員会で参加希望者の数を聞くと、概ね教室を満杯にする参加が見込まれているとの事。安心してホームカミングデーの当日を迎える事ができました。

教室前で受付をしておりますと、まず、野球部関係の先輩方、その後、楠目先生が最初に担任された69回生を中心とした若い卒業生が団体で入室し、最後に楠目先生の応援をと駆けつけた六、七名の51回生がとび入りし、教室は順調に埋まっていきました。恥ずかしな礼のあと、「東日本大地震と原子力発電」という大層な演題の授業が開始されました。とは言え、彼が普段どんな授業の進め方をしているか(長男からは厳しい先生と書いていましたが…)知らない私は、興味津々でした。我々の時代とは隔世感のあるプロジェクトを用いて行う授業。震災と原発の様子が上手く要約され、時折、ユーモアたっぷりの質問をかつての教え子に浴びせる等、本当にベテランらしい上手な進行でした。そして、それは、かつて自分が土佐高の先生方に感じていた事を充分思い出させるものでした。最後にはお約束の、自身を含む野球部の話で大受けし、感動?の特別授業は幕を閉じました。帰り際、直接授業を受けた後輩から、名物チヨーク投げの話聞き、それ位の気概を持って生徒と対峙する事は、彼の信念でもあるだろうし、少なくとも我々同世代は、逆にその位の躰を望んでいるのでは…と思えました。(自分も中学、高校時代には、先生方から相当愛のムチ?をいただいております。)後片付けしていると、急に彼が笑いながら「近いうちに、おんしゃに頼みがある」と言いました。社会教育に関わる事の様ですが、こ

らも引き受けるしかない様です。母校の為に微力ながら協力させていただきます。

最後になりましたが、藤田委員長始め実行委員の皆様、お疲れ様でした。(特にサッカー部の後輩である61回生の宮地君、いつも無理言っつてすみません)また、千頭さんを始め、学校関係者の皆様、毎年のご協力ありがとうございました。この文章を書いていると、祭りの後の何とやらで、少し気が抜けてしまいました。来年は、「2の会」の皆さんに引き継いでいただきます。頑張つてホームカミングデーを盛り上げてください。多くの先輩、後輩の方々と来年もお会いできる事を楽しみに筆を置かせていただきます。



当時の委員長・依光成元(左)と副委員長・依光利佐(右)



2011ホームカミングデー

実行委員会「1の会」

実行委員長 藤田 理 (41回生)

今年は無事に「1」のつく回生が、二〇一〇ホームカミングデーを企画・運営をしました。

森郁夫さん(41回生)、村木厚子さん(49回生)という、ビッグなお二人を講演者としてお迎えし、さらに楠目博之先生には、現在最も関心の高い東日本大震災と原発について授業をしていただきました。

至らぬ点も多々あり、特にサテライト会場の音声が聞き取りにくかったことをお詫び申し上げます。しかしながら、500人近い同窓生が真新しい校舎に集い、夜の懇親会も史上最多の240名の出席をいただき、実行委員一同大変感謝しております。

実行委員をすることで、さらに縦横の繋がりが深まり、土佐高同窓生の有難みを痛感しました。来年は、「2の会」が、更に発展させてくれることを期待しています。





学校近況ご報告

学校長

山本 芳夫（40回生）

同窓生の皆様にはますます「ご清栄のこととお慶び申し上げます。今年三月の東日本大震災の未曾有の惨禍に加え、九月には台風による大きな災害が我が国を襲いました。皆様のところは如何でしたか。改めて被災された皆様にお心よりお見舞い申し上げます。また、これ以上の事変が起きないよう祈るばかりでございます。

さて、平素は母校に対し格別のご厚情とご支援を賜り厚く御礼申し上げます。それでは、以下ご報告致します。

「一、より高いレベルでの文武両道の達成」に向けて

今年の大学受験の現役合格率は、七一・七%でありましたが、これは、過去三年間では最も高い数字であります。このことに代表されるように今年の特長は、現役組即ち86回生が良く頑張ったと高く評価出来ます。それに85回生を中心とする浪人組の着実な実績が加わり、例年以上の成

績を収めることが出来ました。そして更なる高みを目指して、来年の受験生は志望校合格を目指し、今懸命の努力を重ねているところであります。

さて一方、運動部、文化部もこれまでに様々な大会で好成績を残しております。その中で、県体におけるサッカーの四一年ぶりの優勝、県選手権における中学野球部の一八年ぶりの優勝などが大きな話題となりました。また、インターハイや国体などの全国大会へも多くの選手が出場を果たしました（詳しくは「文武両道」の頁をご参照下さい）。

この様に見てまいりますと、池上校長先生が一貫して掲げてこられた「より高いレベルでの文武両道の達成」への道を着実に歩んでおり、力強く感じております。

今後とも、この路線をしつかり継承してまいります。

二、防災（特に地震・津波）対策の強化について

お陰様で、新校舎は免震、耐震構造の地震に強いビルとして二年前に竣工いたしました。しかし、今回の大震災を受け、ハード面だけでなくソフト面での備えを強化すべしとの認識からマニュアルを見直し、それに沿った防災訓練を九月に実施いたしました。訓練には近隣住民の方、潮江小の皆さんにもご参加いただきました。今回の訓練結果を十分検証し、さらなる防災態勢の強化・充実に努めてまいりたいと思っております。これに先立ち、市教育委員会、潮江小、土佐校の三者で、避難場所として本校ビルを使用することの協定書に調印致しました。なお、近隣の町内会とは昨年、同様の協定書を締結しております。

また、振興会の多大なご支援をいただき、毛布等の防災用品あるいは保存食などの備蓄品の拡充が出来ました。心から感謝申し上げます。

三、新校舎建築募金について最後のお願い

新しい校舎は、「安全安心」とともに生徒同士、生徒と教職員との「コミュニケーション」のスペース、「文武両道」をスムーズに行えるレイアウトなどに気を配った、素晴らしい学び舎であります。まだご覧いただけていない同窓生の皆様、どう

か一度お訪ね下さい。お待ちしております。

そして、このような環境を整えていただいた関係者の方々に、改めて深く感謝申し上げます。併せて、財政面でご支援いただきました皆様、有難うございます。

今回の募金活動も来年三月末で終了いたしますが、目標額達成までもう少しでございます（直近の数字は「募金状況」をご参照下さい）。重ねてのお願いで恐縮ですが、最後のお力添えを賜りますようお願い致します。

さて、秋分の日恒例の運動会（今年も創意を凝らした櫓が立ち並びました）が終わり、一〇月は本校中・高の学校説明会、十一月は高一生の修学旅行（東京・京都）と大きな行事が続きます。そして、高三生はいよいよ大学受験に向け最終段階に入っております。来年も良い報告が出来るよう取り組んで参りたいと思っております。

これからは秋の気配が深まってまいります。同窓生の皆様のご健勝とご多幸を心から祈念申し上げます。学校の近況報告とさせていただきます。

平成三年九月



●合格の状況●

国立大学	現	過	計	進学
北海道大		2	2	2
東北大	1		1	1
筑波大	1		1	1
宇都宮大	1		1	1
千葉大		1	1	1
お茶の水女子大		1	1	
東京電通大		1	1	1
東京大	6	2	8	8
東京医科歯科大	1	1	2	1
東京外国語大	2		2	2
一橋大	1	2	3	3
横浜国立大	4	1	5	4
信州大		2	2	2
静岡大	1	1	2	2
名古屋大		1	1	1
京都大	5	4	9	9
京都工芸繊維大	1		1	1
大阪大	10		10	10
大阪教育大	1		1	1
神戸大	8		8	8
鳥取大		1	1	1
岡山大	6	3	9	9
広島大	2	1	3	3
山口大		1	1	1
徳島大	5	5	10	9
香川大	3	4	7	6
愛媛大	5	5	10	8
高知大	22	10	32	26
九州大	1	2	3	3
宮崎大	1	1	2	2
大分大		1	1	1
計	88	53	141	128
昨年	92	46	138	126

公立大学	現	過	計	進学
埼玉県立大	1		1	1
首都大学東京	1	1	2	2
岐阜薬科大	1		1	1
名古屋国立大	1	1	2	2
京都府立大	1		1	1
大阪府立大	2	2	4	4
大阪府立大	2	3	5	3
兵庫県立大	1		1	1
県立広島大	1	1	2	2
高知県立大	1		1	1
高知工科大	2	1	3	3
計	14	9	23	21
昨年	14	5	19	12

私立大学	現	過	計	進学
自治医科大	2		2	2
獨協医科大		2	2	1
国際医療福祉大	1		1	1
秀明大	1		1	1
国際武道大	1		1	1
千葉工業大	2		2	1
青山学院大	11	4	15	3
学習院大		1	1	1
北里大	3	1	4	2
杏林大		1	1	
慶應義塾大	7	5	12	5
国学院大	2		2	2
国際基督教大	1	2	3	
国土館大	5		5	
芝浦工業大	3	2	5	2
順天堂大	1	1	2	2
上智大	2	3	5	1
昭和太	2	2	4	2
昭和薬科大	1		1	
成蹊大	1		1	
成城大		2	2	1
専修大	1		1	
大東文化大		2	2	
拓殖大		1	1	
多摩美術大	1		1	1
中央大	7	16	23	3
津田塾大	1		1	
帝京大	3		3	1
東海大	1		1	
東京経済大		2	2	
東京慈恵医科大		1	1	
東京農業大	3	2	5	1
東京薬科大	2		2	
東京理科大	9	5	14	1
東洋大		2	2	1
二松学舎大		2	2	
日本大	3	2	5	1
日本歯科大	1		1	1
法政大	5	3	8	
星薬科大	1		1	1
東京都市大	1		1	
明治大	12	9	21	5
明治学院大	2	3	5	1
明治薬科大	3		3	1
立教大	6	3	9	4
早稲田大	21	13	34	14
文京学院大	1		1	1
愛知学院大		1	1	1

私立大学	現	過	計	進学
大同大		1	1	1
中京大		1	1	
名古屋外国語大	2		2	
大谷大	1		1	
京都外国語大	1		1	1
京都産業大	6	1	7	1
京都女子大	1		1	
京都精華大		1	1	
京都薬科大	4	3	7	3
京都橋大	2		2	
同志社大	23	17	40	5
同志社女子大	1		1	1
佛教大		1	1	
立命館大	47	21	68	20
龍谷大	12	4	16	3
京都造形大	1		1	
京都文教大	1		1	1
大阪医科大		3	3	
大阪学院大	1		1	
大阪薬科大	4	1	5	
関西大	8	6	14	2
関西医科大		1	1	
関西外国語大		1	1	1
近畿大	6	8	14	4
摂南大	2		2	
関西学院大	12	9	21	4
甲南大	1	1	2	
神戸学院大	9	2	11	2
神戸薬科大	4		4	2
兵庫医科大		1	1	1
姫路獨協大	4		4	
兵庫医療大		1	1	
畿央大	1		1	
岡山理科大	4	2	6	3
くらしき作陽大	1		1	1
川崎医療福祉大	2	2	4	1
広島工業大		2	2	
福山平成大		1	1	1
広島国際大	2	1	3	1
徳島文理大	4	3	7	3
四国学院大	1		1	1
松山大	3		3	1
産業医科大		1	1	
計	299	191	490	128
昨年	352	189	541	155
短大	2		2	1
防衛大	2	3	5	1

進路部長 岡松 宏明 (51回生)

平成22年度入試総括

強い寒波の襲来したセンター試験初日、試験が終わった7時頃は気温が急に下がって寒さにふるえながら帰っていく受験生が印象的でした。今年のセンター試験は全体にどの科目も実力差が適正に反映されるレベルの問題で、7科目受験者の全国平均点は昨年より20点前後アップしました。本校はさら

にそれを上回る好成績で、総点810点(得点率90%)を超えた高得点者が10名に達しました。真面目に勉強していた生徒が多かった86回生の努力が実った結果だといえます。

センター試験の易化で全国的にも強気の出願傾向が目立つなかで本校生はよく健闘をしました。東大・京大はあと一息で10名にとどかず残念でしたが、難関大合格者に占める現役の比率は高く、大阪大・神戸大合格者18名は全員が現役、東大文一・京都・理、大阪・医・薬など、とりわけ難しいとされる学部にもしつかりと合格したのも評価できます。

医学部は、高知大のAO入試と推薦入試で12名が合格。さらに一般入試でも阪大・九大・大阪市太2名・岡山大(3名)・信州大(2名)と四国外の大学にも合格、自治医科大の現役生で2名独占とあわせて立派な成果でした。週刊誌の発表する医学部合格者高校ランキングの上位に今年も名を連ねることができたことも申し添えておきます。

3月11日の震災は国立大の後期試験を直撃、入試の中止や開始時間を遅らせたところなど関東・東北の入試に大きな混乱を与えました。この日は主任の先生を中心として、東京以北で受験している生徒の安全確認に追われましたが、全員が無事だったことは何より幸いでした。

私立大学は長引く不況の影響もあり、現役生は受験校を絞り込んでいる様子がみられ、合格者が昨年より減少した大学もありましたが、難関校を中心に全体にはしつかり結果を出したといえます。



中学野球部 18年ぶり選手権優勝!!

中学野球部監督
三木 一宏 (65回生)

一八年ぶりに選手権大会で優勝することができました。一試合、一試合、試合を重ねることに選手たちの集中力も高まり、チームとして成長していくのがわかりました。スタンドの控え選手の応援も、よく声が出て素晴らしかったと思います。これも支えてくださった皆様のおかげです。本当にありがとうございました。

優勝の原動力は、何といてもエース久保田の頑張りです。決勝までの5試合のうち、5試合33イニングを投げ、被安打12、奪三振32、失点2と見事なピッチングでした。捕手の丁野が、その強肩で

度々相手走者を刺してくれました。もう大きかったです。守りだけでなく、打つ方もよく力を出してくれ

ました。打者でも中心の久保田がマークされる中、決勝は四番の小松(敦)が初回に先制のレフト前ヒット、準決勝の鷲ヶ池戦は、相手投手の決め球を5番の岡本がよく打ってくれました。また準々決勝の大月戦では、下位の浅田と安岡が好投手の濱崎君から効果的にタイムリーを放ち、1-0で勝利した野市戦では6番の門田が貴重な得点をたたき出してくれました。本当に三年生を中心に頑張ってくれました。でも、三年生にはこれで満足せず、もっと自分を磨いてもらいたいと強く願っています。一人でも多く高校でも野球を続けて、甲子園出場という大きな花を咲かせてくれたら、こんな嬉しいことはありません。



がんばる現役生!
文武
両道

全国大会に出場した運動部

高校インターハイ

- 【団体】ハンドボール部(男子), バドミントン部(男子), サッカー部, 登山部
- 【個人】陸上 部: 田村 公・岡野史恵・中村優歩
400mリレー(女子)・1600mリレー(女子)

- 水泳部: 佐々木麻い
- 剣道部: 川田紘之
- バドミントン部: 吉川 善・中山真紗也
- ソフトテニス部: 岸 優樹・松村知拓
- 自転車部: 森 悠太・村田紘之・島 和也
- 空手道部: 池田康一郎

中学校大会

- 【個人】水泳部: 萩原 淳
- 卓球部: 竹崎一皓
- 空手道部: 仙頭 陸

高校県体

- 【団体】優勝 ハンドボール(男子, 4年連続)
バドミントン(男子, 2年連続)
登山(2年連続), サッカー, 水泳(男子)
野球(雨天のため, 4校優勝)
- 2位 卓球(男子), 剣道, 自転車, 陸上(女子)
ハンドボール(女子)
- 3位 ソフトテニス(男子), 空手道, 卓球(女子)
- 【個人】優勝 陸上: 男子400m(田村)
女子100m(中村), 400m障害(岡野)
400mリレー(新納・中村・松岡・武藤)
1600mリレー(武藤・中村・安岡・新納)
走り幅跳び(中村)
- 剣道: 川田
- バドミントン: 男子ダブルス(吉川・中山)
- 自転車: 男子1kmタイムトライアル(森),
スプリント(森)
女子2km追い抜き(佐藤)
500mタイムトライアル(佐藤)
- 水泳: 男子200m平(塩見)
女子100m背(佐々木), 200m背(佐々木)

高校四国大会

- 【個人】優勝 陸上: 男子400m(田村)
女子走り幅跳び(中村)
1600mリレー(岡野・中村・安岡・新納)
自転車: 男子スプリント(森)

中学高知市体

- 【団体】優勝 水泳(男子), 卓球(男子), ハンドボール(男子)
テニス(男子), 野球
- 【個人】優勝 水泳: 男子50m自(徳弘), 50m背(徳弘)
50mバタフライ(森田),
200mバタフライ(松田)
400m個人メドレー(横田)
女子400m個人メドレー(岩本)
- 陸上: 男子1500m2年(都築), 走り幅跳び1年(中村)
女子400mリレー(近沢・上田・兵頭・久米)

中学県体

- 【団体】優勝 水泳(男子, 4年連続), ハンドボール(男子, 2年連続)
テニス(男子)
2位 野球, サッカー, ハンドボール(女子), テニス(女子)
- 【個人】優勝 水泳: 男子200mバタフライ(森田)
女子400m個人メドレー(岩本)
- 空手道: 男子形(仙頭)

全国大会に出場した文化部

- 【棋道部】第47回全国高校将棋選手権大会(森尾・山本・土居)
第35回文科大臣杯全国高校囲碁選手権大会
(谷淵・川村・松尾)
第8回文部科学大臣杯小・中学校囲碁団体戦
(土方・小笠原・田中)
- 【放送部】第58回NHK杯全国高校放送コンテスト
朗読部門(小野)
ラジオドキュメント部門
(小野, 広松, 仲嶋, 西岡, 山崎, 西村)
第35回全国高校総合文化祭放送部門
ビデオメッセージ部門(安岡, 西内, 小野, 広松)





本部活動報告

幹事長 西山彰一（48回生）

二〇一〇年度は一月十八日の母校九〇周年記念事業、そして二〇一一年五月に宮地顧問（前理事長）、池上理事長（前校長）、山本芳夫新校長をお招きしての顧問・理事長・校長先生歓迎会、八月の同窓会総会、ホームカミングデーなどを開催いたしました。本年も各支部総会に本部役員お招きいただき、誠に有り難うございました。「向陽の空」を斉唱するたびに、母校から学んだことそして今も学んでいることを覚え、感動が高まって参ります。

数々の事業を企画、運営するに当たり、学校の教職員の皆様、振興会、そして同窓生の連携により円滑に実施できました事をこの場をお借りし心から感謝申し上げます。様々な同窓会活動を担当の回生の連携はもとより、近年、若い同窓生の活躍が目覚しく、大変頼もしく思います。関東支部の若手の会に習い、高知においても、大学在学中の同窓生と社会人との交流の企画も進んでおります。世代を超えての交流によって、これからの私たちの活動の機会や同窓生の和の広がりが楽しみです。

インターネットが普及し始めて早いもので一〇年余りの月日がたちました。同窓会の連絡なども電話からメールに変わって大変便利になっています。最近、ホームページなどを通じて、同窓生による母校の活動紹介や楽しい交流などほほえましい話題をいただいております。インターネットの便利さの影に詐欺などの犯罪や社会問題が起きている事にも注意が必要です。もし、ネットを通じて勧誘など不審な情報にお気づきになりましたら、是非、本部ホームページへご投稿くださいますようお願い申し上げます。

二〇一一年はポスト龍馬博覧会である「龍馬ふるさと博」による、観光客のにぎわいとともに、九月八日には室戸がユネスコの支援を受けた世界ジオパーク認定の朗報が入りました。これからも、日本一輝く田舎・高知が皆様をお迎えいたします。

本部二〇一一年度事業計画

1. 二〇一一年度総会の開催
2. 土佐中・高等学校校舎建設に伴う寄付金募集に対する協力
3. 同窓会活動について各支部と協議・交流・HPの活用
4. 二〇一五年名簿発行に向けての準備
5. 筆山ホールにて講演会開催
6. 名簿管理システムの運用
7. 同窓会財務強化
8. その他、母校の発展に資する事業

土佐中・高等学校同窓会新役員

(二〇一一年八月二三日改選)

会長	岡内 紀雄	34回生	再任
副会長	横田 整	40回生	再任
副会長	川B 康正	42回生	再任
副会長	北村恵美子	47回生	再任
副会長	徳永 俊一	49回生	再任
副会長	市川 直介	53回生	再任
副会長	西山 彰一	48回生	再任
幹事長	岡田 容典	47回生	再任
副幹事長	田所 智子	49回生	再任
副幹事長	宮地 貴嗣	61回生	再任
副幹事長	矢野 公士	62回生	再任
会計	千頭 裕	58回生	再任
会計監査	森木 将雄	32回生	再任
会計監査	田中 章夫	40回生	再任

母校/同窓会本部/各支部

土佐中学・高等学校 事務 千頭裕 〒780-8014 高知市塩屋崎町1-1-10
 (TEL) 088-833-4394 (FAX) 088-833-7373 (E-mail) tosa@tosa.ed.jp (HP) http://www.tosa.ed.jp/index.html

土佐中学・高等学校同窓会本部 会計幹事 千頭裕 〒780-8014 高知市塩屋崎町1-1-10
 (TEL) 088-833-4394 (FAX) 088-833-7373 (E-mail) tosa@tosa.ed.jp (HP) http://www.tosaobog.com/

同窓会北海道支部 事務局長 山本隆昭 〒001-0018 札幌市北区北18条西6丁目 ARTE 88-305
 (TEL) 011-756-2817 (FAX) 011-756-2817 (E-mail) yamat@den.hokudai.ac.jp

同窓会東海支部 事務局長 神宮美恵子 〒468-0075 名古屋市天白区御幸山1201 御幸山パークマンション B-301
 (TEL) 052-837-5834 (FAX) ナシ (E-mail) jingu-m@crux.ocn.ne.jp (HP) http://tosakotokai.web.infoseek.co.jp/

同窓会関西支部 事務局長 原田和人 〒662-0015 兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-67-205 原田方
 (TEL) 090-1073-7822 (FAX) ナシ (E-mail) harada73@hotmail.com

同窓会広島支部 事務局長(新) 大谷準一 〒734-0007 広島県広島市南区皆実町6-3-26-902
 (TEL) 082-253-5759 (FAX) 082-254-7523 (E-mail) spat56z9@vesta.ocn.ne.jp (HP) http://www.geocities.jp/hiroshimashibu/

同窓会香川支部 事務局長 武山正人(担当=大石浩) 〒760-8573 高松市丸の内2番5号 四国電力(株)
 (TEL) 050-8801-2610 (FAX) ナシ (E-mail) ooishi11737@yonden.co.jp

同窓会関東支部 事務局長 二宮潔 〒100-8222 東京都千代田区丸の内2-6-1 丸の内パークビルディング森・濱田・松本法律事務所 弁護士市川直介 附
 (TEL) 03-5223-7719 (FAX) 03-5223-7619 (E-mail) naosuke.ichikawa@mhmjapan.com (HP) http://www.tosako-kanto.org/

(E-mail) kinomiya@ykh.chiyoda.co.jp / ninomiya@iris.ocn.ne.jp

関東支部

会計監査 幸徳正夫（37回生）



師友の縁に
生かされて

哲学者で教育者の森信三先生は「人間は一生のうち逢うべき人には必ず逢える。しかも一瞬早過ぎず一瞬遅すぎない時に」といわれました。私は、多くの出会いの中でも、土佐高での担任の石川其治先生と級友の黒川雄爾君との出会いは生涯忘れられません。

高校三年のとき脇道にそれかかっていた私に、石川先生は「今のおまえは最低だ。だからといっておまえの全人格・全人生を否定されたわけではなからう。今が悪いなら今を直せ。人間は変わるんだぞ」と、絶対妥協を許さない口調で叱咤激励された言葉が今も耳に残ります。よし、頑張りようと思いましたが、勉強していかないつけがそこにありました。勉強は、勉強する人を裏切らないことを思い知らされました。落ち込んでいる私に絶妙のタイミングで黒川君

が手紙をくれました。「花も嵐も踏み越えて行くが男の生きる道」で始まる手紙には「学生は学問を重んずべき、それができない奴は即ち不良」とあり、「高三の教科書が解らなければ高一の復習をやれ」とも書かれていました。最後に「あまり厚くない参考書を一冊やれ、それが出来ないなら抱いて寝ろ。それが貴様や俺に残された唯一の道だ」と結ばれていました。

幸いにも、私が今日あるのは「人間は変われるんだ」「高一の復習をやれ」と言ってくれた師友の縁があればこそです。爾来、出来る時に出来ることをする、出来ること探しの精神が私の人生の背骨となりました。「この世で一番早く年をとるものは何か、それは感謝の心である」とはギリシャの格言です。私は報恩感謝を旨として、私の持つ唯一のブランド「土佐中高」を誇りにしていきたいと思います。

私は土佐中高の先生には、森信三先生の次の言葉が教育信条として胸に秘められていると確信しています。「教育とは流れる水に字を書くようにはかない仕事だ。しかしそのはかないことを岸壁に刻み込むような真剣さで取り組まなければならない」

東海支部

幹事 瀬沼憲司（64回生）

東日本大震災により多くの尊い命が失われたことに謹んで哀悼の意を表するとともに、被災された方々に対し心よりお見舞い申し上げます。

東海地方は三月一日の大震災で直接の被害は受けなかったものの、必ず起こるといわれている東海・東南海・南海地震もあるため、遠くの出来事とはとても思えず、私は震災から数日後にグランパスサポートによる義援用飲料水を被災地に送る活動に参加し、定期的にチャリテイなどにも参加しています。東海地方の経済の方も電力不安などもあり大きな影響がありました。ただ、このところ輪番操業などにより停滞していた経済活動なども少しずつですが動き出したような感じもあります。また、今年もスポーツが東海地方を明るくしてくれています。この原稿を書いている時点で中日ドラゴンズ、名古屋グランパスとも優勝争いを繰り広げてくれています。

東海支部で毎月第二水曜日に開催している二水会という親睦会でも、名古屋グランパスなどスポーツの話

題で盛り上がっています。私は名古屋グランパスのサポーターとして全国へ応援に行くこともあり、スポーツが日本を明るくしてくれていることを非常に強く感じます。

さて、今年はホームカミングデーに初めて参加させていただきました。森郁夫先輩、村木厚子先輩のお話は非常に刺激になり、また、ホームカミングデー後は、41回生の集まっておられる所にお邪魔し、遅くまで先輩方と様々なお話をさせていただきました。改めて土佐高の名に恥じない人間になるようさらなる努力をしなければと誓った次第です。

東海支部では五月に総会を行い、一二月初旬には懇親会を予定しております。相変わらず少人数ではございますが、名古屋から元気を発すべく支部会 員みんなで頑張っておりますので、名古屋においでの際は是非、二水会への御参加をお待ちしております。



筆者（右）

関西支部

幹事 藤原由親（65回生）

同窓生の皆様、こんにちは。本年度より関西支部の幹事となりました藤原と申します。今まで同窓会とはあまりご縁のなかった私ですが、こちらで知り合った先輩の（強引な？）お誘いを受け、幹事の一人としてお手伝いをさせていただくことになりました。微力ながら関西支部の発展と会員の皆様の交流親睦に精一杯頑張りたいと思います。

幹事となった関係もあり、この夏には初めてホームカミングデーにも参加させていただきました。残念ながら懇親会のみ参加となりましたが、同窓会で毎年こういう活動が行われているのだという驚きと、土佐高校のOB・OGの皆様のパワーやネットワークの強さを感じずにはいられません。また、様々な方面でご活躍されているすばらしい同窓生の皆様がいっしょやることを知り、私自身、非常に刺激を受けました。あらためて土佐高校OBとして誇りを感じるとともに、自分も頑張らねばと思っただ次第です。

さて、前置きが長くなりましたが関西支部事務局より今年度の活動を

ご報告申し上げます。

今年度の総会・親睦会は四月三日

（日）に開催されまし

た。場所は淀川の桜が

一望できる天満橋のイタリアンレストランです。ご来賓一名を含む七

名のお出ででした。今年は新しい企画として新社会人となった卒業生一

人ひとりの自己紹介が行われました。同じ業界で働くこととなる先輩・後

輩の親睦も深められ、同窓会としてより意義深いものとなりました。最後は恒例の「よさこい踊り」で盛り

上がりました。

また、平成二四年度の総会・

親睦会は次のとおり開催されることとなりました。

平成二四年四月八日（日）

午前11時30分受付開始（予定）

関西文化サロン

（阪急ランドビル19階）

電話〇六 六三二一六 一五七七

より多くの皆様にご出席をいただき、今年以上に盛り上げていきたい



筆者（右）

と思います。「総会案内」並びに関西支部機関紙「なんぶう」（第三二号）の発送も平成二四年一月に予定しております。

最後に、同窓生の皆様のご健勝を祈念いたしまして関西支部だよりとさせていただきます。

広島支部

会計幹事 小島 康（37回生）

今年の夏は国を挙げての節電で、例年とはまた違った暑さでしたが、皆様におかれましては如何お過ごしでいらっしゃいましたか。

初、広島支部役員は来る一〇月二十九日（土）開催の平成二三年度支部総会の御案内状を、本部各支部宛に発送させていただき、一息ついているところ。今年は一〇年ぶりに会場を変え、「広島アンデルセン」にしました。講師は傍士銃太氏（49回生）で、「国の成り立ちを変える」の演題でお話していただきます。同窓生の講演は、格調高い中にも身内の和やかさがあり、私は毎年楽しみにして出掛けます。

ところで、広島支部は平成元年に

発足して、速いもので二三年目を迎えました。一〇周年記念総会の日は事もあろうに大雪で、御来賓を例年の二倍お招きしてありましたので、無事に皆様到着されるのか、高知からの講師37回生の福留脩文氏の車は雪道を走れるのか、果たして総会が開催される運びになるのかと、胃がキリキリ痛みましたが、それも今となっては私の一番の懐かしい思い出となりました。

お人も然りです。「私にとつて広島は大切な土地です」と、おっしゃり、時には奥様を伴われて支部発足以来二〇年間広島支部会員として、はるばる東京から出席してくださいました名誉会員の竹村照雄氏（20回生）。マイクを握り締め、「音戸の舟歌」を朗々と歌いあげ、宴席を大いに盛り上げてくださった、呉市ご出身で土佐大好き、今は亡き天田充氏（26回生）。帰りのバスの時間を気にされつつも、物静かにギリギリまでその場の雰囲気を楽しんでいらつしやうた大西賢一氏（27回生）。初代支部長として一〇年間に亘つてその基盤を築いてくださいました岡村進介氏（30回生）。「岡村君に会えるから」と東広島から参加してくださった竹内喬子さん（30回生）。広島から高知にリターンなさって二年

「中国で考えたこと」と題して講演をなさり、幹事も務めてくださった宮田賢二氏（33回生）。

これらの方々は広島支部を愛し、長年支部総会に出席されて、助言、応援していただきました。お顔を見せて下さらなくなって久しく、懐かしさが募ります。

香川支部

支部長 安岡弘道（41回生）

今年も香川支部総会・懇親会を恒例の「七夕総会」と称して七月二日（土）にJR高松駅近くの「サンポート高松」のシンボルタワー一七階で行いました。天気がよく遠くの島々や沈む夕陽を眺望出来、眼下には連絡船が行き交う港町の風情を楽しみながら会員三六名、来賓七名の計四三名が出席しました。池上前校長、山本新校長がご多忙の中やり繰りして参加くださり母校のホットな近況を報告してもらいました。毎回ご出席いただく19回の三澤衛一郎大先輩から79回政岡良治・大崎弘貴両君まで実に六〇年の開きがあります。各年代層がバランスよく集い大い

に懇親を深めました。

香川の近況ですが瀬戸内の島々が見直され今や静かなブームになっています。昨年夏に高松港を玄関口にして七つの島を舞台に現代アートの作品を創作・展示する第一回瀬戸内国際芸術祭が開催され大きな反響を呼びました。この七月に有志で坂出港を出航して塩飽諸島のうち六つの島を二日間モーターボートでクルージングしてきました。どの島にもそれぞれが辿ってきた時の流れが今もどこかに残っていました。往時の栄華を忍びせる立派な住居や石垣、神社仏閣が伸び放題の雑草や雑木に侵食されて荒れてはいますがしつかりと踏み耐えて訴えかけてきます。どこか時間が止まったような懐かしい空気に浸ることが出来ます。それぞれ住人がおり、生活便の通船の定期便がありますので、行こうと思えば誰でも渡ることが出来ます。一度瀬戸内の島巡りにお出かけください。

北海道支部

事務局長 山本隆昭（53回生）

北海道支部事務局の山本です。最

近は、天候の話になると異常気象という言葉が頻繁に使われ、何が平年並みなのか分からなくなってきました。今年の北海道も例外ではなく五月に平地でも雪が積もったり、最低気温が氷点下になったりという天候で、八月には札幌でも三〇度を超える日が続き、中旬頃になると天気の良い日にはストロブを焚く道東でもお盆過ぎになっても三〇度近くになっていました。九月になってからは台風が来て大雨になったりとまさに異常気象の連続でした。今年の支部総会は、一〇月二九日の開催予定ですが、天候不順で大雪にならなければと思っています。九月末現在札幌市街地では紅葉はまだまだという様な状態ですが。

さて北海道支部の近況についてお知らせいたします。北海道支部の活動としては支部総会の開催と、各支部会報への支部便りが主です。この一年も各支部会報に支部便りを掲載させて頂いております。また昨年の支部総会には、来賓として同窓会会長・岡内紀雄様、土佐高教頭先生・小村彰様にご出席頂きました。関西支部からの太田涼子様（29回）を加え、総数一〇名で開催いたしました。このようにごんまりとした会ですが、少しずつでも参加人数を増や

ていきたいと思っています。北海道支部からは、例年役員以外の会員の出席が少ないのが現状ですが、北海道の大学にも例年何人かは進学していると思いますので学生の皆さんに出席してもらうにはどうしたら良いか検討しているところです。また、二〇〇九年の総会で今期の役員が承認されましたが、昨年の総会で一部変更があり、和田支部長が兼任していた幹事長として、広報担当の先川様（45回）が選出されました。

最後になりますが、今後も北海道支部を宜しく願います。もし最近北海道に転居される卒業生の方を存じの方がおりましたら、是非北海道支部に連絡する様お伝え頂きますでしょうか。宜しくお願い致します。



2011支部総会にて（10/29）

